

『わたし』に必要なもの

川瀬葵

原案

西村行登

作

防府商工高校演劇部

潤色

連絡先：山口県立防府商工高等学校 演劇部 0835-22-3790

創作年度・上演年度 2022年
第38回山口県山防地区高等学校演劇協議会演劇発表会 最優秀賞
第44回山口県高等学校総合文化祭演劇部門・第41回山口県高等学校演劇大会 優秀賞

【登場人物】（7人で上演可能）

最上 水葵 もがみ みずき (16) ……主人公

倉本 樹 くらもと いつき (35) ……主人公の恩師

八島 瑠依 やしま るい (16) ……主人公の幼馴染

沢口 夏海 さわぐち なつみ (16) ……主人公の高校の同級生

宮 星来 みや せいら (16) ……主人公の高校の同級生

最上 千代 もがみ ちよ (42) ……主人公の母

白木 理子 しらき りこ (26) ……高校の先生

〈テーマ〉

常識、マナー、暗黙の了解、「当たり前」。少しずつ自分らしさを表現する場が失われていくなかで、必死に「わたし」らしく生きようとする水葵。

「仮面」として具現化した同調圧力の中で、どうふるまえばいいのか、どう生きればいいのか、葛藤して水葵はどのような結論を出すのか。「自分らしさ」とは何なのか、問いかける。



○教室

机の上に仮面

水葵が歩いてきて、仮面を手取る
ゆっくりと上にかざす

○自宅・電話のそば

水葵が家でくつろいでいると電話が鳴る
水葵は電話に出る

水葵
もしもし

倉本
もしもし。あ…もしかして水葵か??

水葵
あ、倉本先生!

倉本
あー…その…(言いづらそうに)今日のことなんだが…先生の力不足だったな。許してくれ。

水葵
いやいや、倉本先生は全く悪くないですよ!こちらこそ迷惑かけてすみませんでした…

倉本
いや、でもまあ、元気そうで良かった。先生の心配のしすぎだったか?

水葵
スッキリした訳ではないですよ?こう見えても落ち込んでますから。

倉本
ああ、やつぱりそうだよな…。大丈夫か?先生に出来ることがあれば何かするぞ?

水葵
ん……そうだ!じゃあ、成績上げて下さい!

○音楽(オープニング)流れる

サティ グノシエンヌ

←

サスポット・上手からSS フェードイン
水葵歩いてくる

←

演技後照明・音楽カットアウト

水葵衣装チェンジ

水葵、ソファーにスタンバイ

○電話音(3コール)

←

ソファーと電話に照明フェードイン

水葵、ソファーから立ち上がり、
電話に出る

倉本 はっはっは。それは無理なお願いだな。

水葵 えー…

倉本 勉強は自分のためにするんだ。ずるしたって意味はないだろ？

水葵 まあそうですけど。

倉本 ははっ。何なら今から勉強してでもこい！先生は水葵が一生懸命勉強してる間に、お母さんとお話してるから！

水葵 はいはい。じゃあ、お母さんに代わりますね。勉強はしませんけどね！

水葵 お母さん、倉本先生から！電話代わってだって！

千代 はーい、今行くからちょっと待ってて！

(下手) から千代が急ぎ目で来る。

水葵は入れ替わるように(下手)に退場

千代 もしもし、お電話代わりました。

倉本 あ、水葵さんのお母さんですか？担任の倉本です。

千代 あっ、倉本先生。いつも娘がお世話になっております。

倉本 こちらこそいつもお世話になっております。少々お時間頂いてよろしいでしょうか？

千代 はい、大丈夫です。

倉本 えっとですね…今日、もうすぐ行われる文化祭についての話し合いがあったんですけど、水葵さん、ちょっと他の子と揉めてしまいました…。

千代 ああ、またですか…。

倉本 そうですね…、水葵さんが話し合いの中で、意見を出したんですけど、それに対して良く思わない子もいたようで…

千代 まだ、あの子はクラスの中で意見を言ってるんですか？

倉本 いや、はい、まあ。そのせいで周りの子たちとは、その何というか、距離があるように思いますね。

千代 そうですか…

倉本 まあ、わたしも水葵さんは水葵さんなりの考えがあるでしょうから、そちらの考えも汲み取りたかったですけど…

千代 いえ、あの子が周りに合わせられないのが悪いんです。あの子は周りのことを気にせず、自分の意見をすぐに口に出してしまうから。本当にご迷惑をおかけして申し訳ありません。

倉本 いえいえ、そんな…

千代 いつもお電話ありがとうございます。先生。

わたしから娘には良く言い聞かせておきますので、今後とも娘をよろしく願いますね。

倉本 …分かりました。こちらこそよろしく願います。

千代 それでは失礼します。

電話が終わり、千代は仮面を電話台から取り出す

千代 (ため息をついたあと) そろそろ、あの子にもこれが必要ね…。

千代 (仮面を隠して) 水葵！ちよつと来なさい！

水葵 はい。

水葵、下手からゆっくり出て来る。

千代 (がっかりした様子で) あんた、またクラスの子ともめたみたいね…。どうしてなの。

水葵 (ソファーに座り) 先生が文化祭でやりたいことはないかって聞いてくれたのに、誰も何も答えないから。私は自分がやりたいことを言っただけじゃん。そしたら、あいつら影でぐちぐちと…

千代 どうして手を挙げたりするの。

水葵 やりたいことがあったから手を挙げた…その何がいけないの？

千代 (ソファーに座りながらあきれたように) もう何回も聞いたわ、それ。だから何度も言ってるでしょ。

(説得するように) 周りのお友達と一緒にいいの。みんな黙ってたんだよ。じゃあ、わざわざ自分の意見を言って、目立つ必要はないの。あなたは意見を言う必要なんてないの。

水葵 なんでよ。意味わかんない。

千代 (なだめるように) 意味が分かんなくても、それがあなたのためなのよ、水葵。

水葵 (納得できない様子で千代のいない方をみる。)

千代 (しばらく間を置き) …はあ(ため息)。ねえいい加減大人になって、水葵。周りに合わせていけば、あなたも誰とも揉めずに幸せに生きていけるわ、それでいいじゃない。

水葵 (うつむいて受け入れられない様子)

千代 (決心するように立ち上がり) …あなたに見せたいものがあるの。

水葵は見せたいものとは何だ?と、顔を上げる。
千代は隠した仮面を取り出す。

水葵 …なに?それ

千代 これからこれを着けて生活しなさい。もうあなたは…何も考えなくていいから。

水葵 え…?

千代が水葵に仮面を渡す。
水葵はゆっくりと仮面に手を伸ばし受け取る。
仮面を受け取って、水葵が仮面をまじまじと見る。

○仮面を受け取ったあと

照明フェードアウト

(3〜5秒かけて)

同時に音楽(くるみ割り人形)を

フェードイン

←

暗転後、水葵着替える

白木、瑠依、夏海、星来スタンバイ

水葵、スタンバイ後、音楽フェードアウト

○教室・教卓と机

白木が教卓の前に立ち、他の生徒は自分の席についている
水葵が発表をするために立ち上がっている

水葵 クラスメイトと協力して何かを作ったりするのとかどうかなって思ってた…

各クラスで作品を作って、どの作品がいいか競う！とかにしたら面白いんじゃないかなと思います。

白木 なるほどね、最上さんが意見を出してくれているけど、みんなどう思う？

白木 (少し間を置き、誰も反応しない様子を見て) じゃあ、他にも何か意見はある人はいる？

白木 (少し間を置き) 沢口さんはどう？

夏海 去年と同じバドミントンでいいと思います。

チャイムが鳴る

白木 よし、じゃあ今日はここまで。クラスマッチの競技決めについては、また来週の話し合いで決めましょう。
号令お願いします。

夏海 起立、気をつけ、礼

全員 ありがとうございます

水葵が目立つように礼を言う。

周りの生徒は言わなかったり、ボソボソと言ったりする。

立ち去ろうする白木に声を掛ける水葵。

水葵 あっ、先生！

○ホリゾン特(昼間・青空)
教室へ照明フェードイン
(地明かり、シーリング、TOP)

○チャイム

白木　ん？どうしたの？最上さん。

水葵　あのくクラスマッチの希望って、絶対スポーツ関係じゃないといけないって決まりはありませんよね？

白木　（少し困った様子で）そうね、まあでもみんなで決めないかね。

水葵　そうですよね、もう少し考えてみます！

ヒソヒソと主人公の方を見て話す夏海と星来、水葵の方を見ている瑠依。

水葵は座っている瑠依に声を掛ける

水葵　瑠依お疲れ。

瑠依　あ、水葵。お疲れさま。

水葵　クラスマッチ、楽しみなね

瑠依　水葵、張り切ってるね。

水葵　折角高校生になったんだから！わたし、やりたいことたくさんあるし！

瑠依　ま、まあそうだね。

夏海と星来が、水葵と瑠依に近づいてくる。

夏海に星来がついていく様子。

瑠依が気付いて声を掛ける。

瑠依　あ、夏海ちゃん、星来ちゃん。

夏海　ねえねえ最上さん、ちよつといい？

水葵　ん、なに？

夏海　（前の方に向かって歩きながら）最上さんはどうして仮面付けてないの？

水葵　仮面？（瑠衣の後ろを通り、前に出ながら）

：ああ、なんかつけると仮面の声が聞こえるよとかってやつだよね？
別につけなくてもいいんでしょ？

夏海　（下手に向かって歩きながら）まあそうなんだけど。高校にあがるころにはみんな自然とつけるようになるの。
（振り返って）だから不思議で。

水葵　（驚いた様子で夏海の方へ向かいながら）え、でもふたりだってつけてないよね。

夏海　ううん、いつもつけているよ。

水葵　あなたも？

星来　まあね。

水葵　え、でもどこにも見当たらないじゃん…。

星来　（椅子に座りながら）仮面をつけていない人には、他の人の仮面は見えないから。
つけている人には見えてるけどね。

水葵　へーそうなんだ。

星来 (つぶやくように) そんなことも知らないんだ…

水葵 え、なに？

星来 (そっぽをむいて) 別に…

水葵 …そんなに仮面をつけてるといいことがあるの？

夏海 もちろん！仮面はね、みんなが幸せになるための正しい行いを教えてくれるの。

水葵 なにそれ、よくわかんない。

夏海 (下手に向かいながら) うーん、たとえばね、目の前のお皿にはたった一枚のクッキーがあるとするとでしょ。最後の一枚よ。だれも食べないで我慢してるの。(少し振り返って) あなたはどうする？

水葵 (夏海についていきながら) うーん…そもそもなんで我慢してるの？

夏海 それは分からないわ。でも、少なくとも何か理由があって、皆我慢してるの。で、最上さんはそのクッキーに手を出す？

水葵 いや、まあ皆我慢してるなら手を出さないかも…

夏海 (星来のいる位置あたりまで水葵に詰め寄り) でしょ？それが周りに合わせるってことなの。周りが何か従ってるなら、自分も従う。だって、そうすれば誰も傷つかないから。素晴らしいと思わない？

水葵 (詰め寄ってきた夏海から離れるように上手へ移動して) …さっきから、なんか言いたげだね。私に言いたいことがあるならばつきり言ってほしいんだけど。

夏海
・・・。

星来
(少し間をおいて、立ち上がって論すように) まあ要する夏海が言いたいのね、最上さんも今後トラブルが起きないように今からでも仮面を着けるべきだってことよ。

水葵
(興味なさそうに) ああ、そうゆうことね。ありがと。
でも私には必要ないと思ってるから。参考までに聞いとく。

星来
(ため息をついて) だよ。ま、そのうち分かるんじゃない? あなたに必要なものがね。

星来
ねえ、もう行こうよ。

夏海
う、うん。

立ち去る夏海と星来

水葵
(気味悪そうに二人を見送りながら) なにあれ、なんか怖くない。

溜依
・・・。

水葵

水葵
溜依ももしかして仮面つけてたりする?

溜依
つけてないよ。水葵と一緒に。なんだか怖いもん。

水葵
そうだよね! (舞台中央に向かって歩きながら) あ、あ、きつと倉本先生だったら、そんなもの必要ない! 自分らしくいることが大切だ! とか言ってくれそうだな。

瑠依 ああそうかも。

水葵 もう中学卒業して、3か月くらいか。倉本先生元気にしてるかな？

瑠依 水葵、ほんと倉本先生のこと大好きだよね。

水葵 まあね。あの人はわたしをわたしとしてきちんと見てくれているというか、認めてくれているというか、そんな感じがしてたんだよね。

瑠依 そっか…

水葵 (瑠依に駆け寄って) でき、さっきのクラスマッチの話なんだけど、

…みんなで色々持ち寄って作品を作って競うの！面白そうじゃない?? スポーツじゃないといけないうって決まりはないみたいだし！瑠依はどう思う？

瑠依 うーん、そうだね、面白いかもね

水葵 でしょ！でしょ！

水葵 楽しそうに話している

瑠依、話を聞いている

瑠依「面白いかもね」きっかけ
照明フェードアウト

○暗転後、白木、夏海、星来スタンバイ

○教室・教卓と机

白木 では、この前の続きを話し合いましたでしょうか。じゃあ今日からは担当の沢口さん、前に出て話し合いを進めてもらってもいい？

夏海 分かりました。

夏海が前に出てくる

白木、邪魔にならない場所に移動する

夏海 じゃあ、去年と同じバドミントンでいいと思う人は手を挙げてください。

水葵 (急いで手を挙げて) あ、あの、この前も少し話してただけど、それぞれのクラスで作品を作って、それをみんなで発表したりする大会はどうかと思っ！スポーツをするだけよりはクラスの仲が深まると思うし、どうかな？

水葵が話している間周りはうつむいていて興味がない様子

夏海 (少し間をおいて) 最上さんの意見がいいと思う人は手を挙げてください。

誰も手を挙げない

水葵 材料をダンボールとかにすれば色々なところから集めてこれるし、お金も掛かかんないと思うし、それに作成も放課後とかを使えば、時間も…

溜依 もうやめなよ、水葵。

水葵 え、溜衣…

○照明フェードイン

照明 基本前の場面同様

- ・ホリゾン (青) 濃くなる
- ・照明全体的に落とす

夏海 去年と同じ内容でいいと思う人は手を挙げてください。

夏海、星来が手を挙げる
瑠依も少し遅れて手を挙げる

夏海 じゃあ去年と同じバドミントンで決定します。

チャイムが鳴る

白木 はい、沢口さんありがとうございます。では、このクラスのクラスマッチの希望はバドミントンにします。号令をお願いします。

夏海 起立、気をつけ、礼

全員 ありがとうございます

水葵は不満げな様子
白木が夏海を呼ぶような仕草をする
夏海は星来に声をかけ、教卓のそばにいる白木のところへ移動する
水葵がイライラした様子で周りにも聞こえるように瑠依に声を掛ける

水葵 (瑠衣の方へ移動しながら) 全然みんな意見出さないし。やる気なさすぎでしょ。
やりたいこととかないのかな? (瑠衣の方を向いて) てか、瑠依もバドミントンがよかったなら、そう言ってくれればよかったのに。この前話した時には面白いつて言ってくれてたじゃん。

瑠依 ……。

水葵 (正面を向き、瑠衣に背を向けて) 瑠依なんか変わったよね。瑠依らしくないよ。
中学の頃は、もっと自分の意見を口にした。なんだか別の人になったみたい。

○チャイム

瑠依 水葵が変わってないだけだよ…

水葵 え……。

瑠衣のセリフきっかけで、白木が下手へ退場する

夏海 (話を遮るように下手側から声をかける) 瑠衣ちゃん！白木先生に課題を取りに来てほしいって頼まれたから、

手伝ってくれない？

瑠依 あ、うん、いいよ。ごめん、水葵。またあとでね。

瑠衣、急いで下手に移動する

夏海、星来、瑠依と一緒に教室から出ていく
一人残される水葵

○3人が下手に退場後
照明全体フェードアウト

○家・電話のそば

電話の前に立ち、思い悩んでいる様子の水葵
勇気をだして、電話をとる
倉本の声が袖から聞こえる

倉本 もしもし（仮面をつけていないので少し暗め）。

水葵 …あ、倉本先生ですか？

倉本 その声は…水葵か？

水葵 あ、はい、最上です。あの、今お時間大丈夫ですか？

倉本 お、おお、もちろん大丈夫だけど、少し待ってくれ…

倉本 （仮面をつけて少し明るくなり）お待たせ。久しぶりだな。さては、何かあったな？

水葵 えっ、何で分かったんですか？

倉本 ははっ、そりゃ、卒業した教え子がこんな時間に電話してきたら、誰だって何かあったと思うだろう！

水葵 そうですよ…遅い時間にすみません。えっと…その…
（少し思い悩んだあと勇気を出したように）実はわたし、高校であんまり馴染めてない気がして…。

倉本 そうか…

水葵 先生、仮面って知ってますよね…？

倉本 そりゃまあ、な。

○電話台を中心に照明（地明かり・CL）

← 水葵電話を手に取ったあと

← 電話コール音（2コール）

← マイク・倉本の声

水葵 その、先生は仮面をつけること…仮面の言う通りに生きることについてどう思っていますか？

倉本 …水葵はどう思っているんだ？

水葵 わたしは仮面なんていらな思っています。だって自分の気持ち大事だから。確かに周りに合わせていけばトラブルは少ないかもしれないけど…。でも、私の人生、いろんなことを自分で決めていきたい。仮面の言う通りに生きる人生なんて、わたしの人生じゃない気がして…。

倉本 そうだな。

水葵 だけど、クラスメイトに着けた方がいいって言われちゃって…。

水葵 …先生、やっぱりわたし間違ってますか？先生は仮面のこと、どう思っていますか？

倉本 …（少し考えたあと）うん。良く分かった。水葵はそのままが良いんだよ。

倉本 うん、先生も仮面なんて必要ないと思うよ。クラスメイトの言うことがなんだ！自分らしいのが一番！！着けたくないなら着けなくていいんだ！水葵がそうしたいと思ってるんだろ？なら、そうすればいいんだよ。

水葵 先生…

倉本 水葵の背中を押すのが先生の役目だからな。

水葵 …じゃあ、わたし、今まで通りで良いってことですか？

倉本 ああ。水葵は水葵のままでもいいんだよ。

水葵 （嬉しそうにはにかんで）…実は倉本先生ならそう言ってくれるだろうと思っていました。

倉本　　そうなのか？

水葵　　ふふつ。うれしいです。ありがとうございます。…あの、また電話してもいいですか？

倉本　　ははっ、当たり前だろ。卒業しても水葵の先生であったことには変わらないからな。いつでもかけておいで。

水葵　　ありがとうございます。それじゃあ失礼します。

水葵、電話を切る

電話のそばに立ち尽くす

水葵　　ありがとう、倉本先生。わたし、頑張るよ…

照明フェードアウト

○教室・昼

チャイムの音が鳴った後で明転
椅子から立ちあがり瑠依の席に向かう水葵
机に座っている瑠依に声をかけようとする

水葵 ねえ、瑠依…

夏海 (遮るように) ねえ、瑠依ちゃん、一緒に売店行こ！お茶なくなっちゃった。

瑠依 いいよ、私もちょうど欲しかったとこ！

どこかへ行ってしまいう夏海と瑠依
落ち込む様子の水葵を見ている星来

星来 ねえ、どうしてなの？

水葵 え？

星来 どうしてあなたはそこまで仮面をつけることを拒絶するの？

水葵 なに？急に…

星来 さすがに気付いてるでしょ、あなたクラスで浮いてるの。

水葵 ……。

星来 仮面をつければ、自分がどうふるまえばいいか教えてくれる。あなたはただその通りにすればいいのよ。それだけであつという間にクラスの一員。その何が不満なの？

ホリゾン(紫)・教室暗め

水葵 ただ自分の気持ちに正直なだけ。

星来 その結果、クラスメイトみんなに距離を置かれても？

水葵 自分の思いも考えも言えなくなってしまうことをあなたは どうして受け入れられるの？
私には仮面をつけていることがどうしても理解できない。

星来 (少しずつイライラした様子で) だから、それが正しいことなのよ。自然とみんなそう思うようになるの。
あなたみたいな例外を除いてね。

水葵 理由になってないよ。わたしは自分が間違っているとは思えない。

星来 (少し声を荒げて) 間違っているから、みんなあなたから離れていくんですよ？なんでわかんないの？

水葵 どっちが正しいかなんて誰も分かんないじゃん。それに…私の背中を押してくれる人たちもいるから。
…だから、私はこれからも自分らしく…

星来 そんな人いるようには見えないけど？

水葵 そんなことない！ほ、ほら、溜依だって仮面をつけてないって言ってたし。だから、わたしは…

星来 (遮るように) ああ、もういい。ほんとイライラする、あなたと話してると。

(少し沈黙後) 知ってる？仮面を着けている人にしか、他の人が仮面をつけているかどうかわからない。
でも、仮面を着けなくも、それが分かる方法があるの。

水葵 ……

星来 仮面をかぎすの。着けなくても仮面を通して見れば誰が仮面をつけているか分かる。

あなたが生きている世界が本当はどんな世界か…知りたくない？仮面は持つてるんでしょ？

水葵 一応、お母さんに言われて鞆の中に入れていけるけど…

仮面を取り出す水葵、指をさす星来

立ち尽くしている瑠依と夏海

顔を上げると二人とも仮面をつけている

水葵 え、瑠依、仮面つけてないって…。

星来 誰かが引き受けないといけないの。あなたみたいな人。それが仮面の意志。

瑠衣ちゃんがいるから、みんなあなたのこと、我慢できてるのよ。分かってる？

水葵 ……。

星来 「ああ、瑠衣ちゃん今日もあの子の面倒見てる」って、「かわいそうだね」って。

みんな瑠依ちゃんに同情するから、あなたの存在を我慢できる。それが調和。

水葵 そんな…。

星来 でも、そろそろ限界。もううんざりなのよ、あなたには。私も、クラスメイトも、…きつとあの子もね。

星来 あなたがどうすべきかわかった？

水葵 ……。

星来 (優しく慰めるように) 大丈夫、あなたも受け入れるしかないの。ゆっくり考えてみて。じゃあね。

「あなたが」きっかけて
全体照明フェードアウト
水葵、星来にスポット

仮面をかざすきっかけて

瑠衣・夏海にスポット・カットイン

(中心当たり)

星来退場に合わせて照明フェードアウト

水葵と瑠衣が二人きりで教室にいる
瑠衣が帰る準備をしている時に水葵が声を掛ける

瑠衣　じゃ、そろそろ私、部活に行かなくちゃ。

水葵　：（引き留めるように）ねえ瑠衣。：私、仮面をつけたほうがいいのかな？

瑠衣　え、急にどうしたの？

水葵　（すこし笑ってごまかすように）いや、なんか周りのみんな仮面つけてるみたいだし、つけていないの私たちだけみたいだからさ。どうなのかなって。

瑠衣　（少し黙ったあとに静かに座りながら）ねえ水葵。私たち、もう高校生なんだよね。だから今までと一緒にじゃダメだと思うんだ。

水葵　うん。

瑠衣　難しいかもしれないけど周りの人の気持ちを考えて、時には自分を押し殺すこともきつと必要なんだよ。

水葵　うん。

瑠衣　（立ち上がり水葵の方に向かって歩きながら）私も仮面なんて必要ないと思っていただけだね。でも自分の意見を我慢するだけで、クラスにも馴染めるし、友達もたくさんできるかもしれないんだよ？（水葵を通り過ぎた後に振り返り）そっちの方が良いと思わない？

水葵　そうだね。

瑠依

(上手側に移動して) 水葵ってさ、中学生のころから…なんていうんだろ、他の人より目立ってたじゃん？
私はね、そこは水葵のすっごくいいところだと思ってるんだけど、それを良く思わない人もいるみたいだし。
(水葵に近寄りながら) きっと仮面を着ければ、水葵はもつと魅力的になると思うんだ

水葵

そうなのかな？

瑠依

(水葵の手を握りながら) そうだよ！！私も一緒に着けるから、これからは仮面を着けてみようよ。ね？

水葵

(つぶやくように) やっぱりそうなんだ…。

瑠依

え？

水葵

(瑠依の手を振りほどいて) ううん…心配してくれてありがとう。ごめん！
でも、やっぱり私は自分を曲げてまで周りに合わせたくない。自分を押し殺して生きていくことが
幸せだなんて、どうしても思えないの。仮面なんか着けたくない。…ごめんね。

瑠依

…そっか。やっぱりそうだよね。ううん、謝る必要なんてないよ。
大変かもしれないけどこれからも二人で頑張っていこうね。

水葵

(瑠衣に背を向けて、沈黙後ふり絞るように) …瑠衣、今までありがとうね。それじゃあ。

鞆を持って教室を出ようとする水葵に声を掛ける瑠衣

瑠依

ねえ水葵…またいつでも相談に乗るからね！私たち親友でしょ？

水葵

(立ち止まり、俯きながら) ねえ、瑠衣。それはあなたの言葉？それとも…

カットアウトで暗転

音楽フェードイン

スラブ舞曲 第二番

家の大道具撤去

○帰り道・歩道橋・夕暮れ

だれかと話している様子の倉本（後ろを向いていて、顔は見えない）
落ち込んだ様子の水葵 手には仮面
水葵、倉本を見つける

倉本 あ、はい、はい、いつもお世話になっております。

水葵 あれって倉本先生…？

駆け寄ろうとして立ち止まる水葵

水葵はゆつくりと倉本に仮面をかざす

水葵 倉本先生…（小さく声を掛ける）

振り返る倉本 仮面をつけている

倉本 おお、水葵じゃないか、久しぶりだなあ、元気だったか…（水葵の仮面に気付き）ああそれ…

水葵 倉…本…先生…。なんで…仮面…。

仮面を外す倉本、うなだれた様子

倉本 …ごめんな。

水葵 （倉本に詰め寄りながら）ごめんなじゃなくて！仮面なんか必要ないって言ってたじゃないですか！

わたしは『わたし』のまままで良いつて言ってくれたじゃないですか…！なのに…！なのに…！
どうしてその倉本先生が仮面着けてるんですか！おかしいですよ！

倉本 そうだな…

車の走行音

夕暮れ（オレンジ＋青）

照明フェードイン

倉本を見つけたタイミングで徐々に暗転

倉本と水葵にスポット

水葵 (倉本に背を向けて) 先生だけだったんですよ、わたしがわたしらしくいることを認めてくれたの…

水葵 (正面を向きながら) お母さんも友達も、わたしが何か言うたびに、離れて行って、

どんだんひとりになっていく。さみしいし、つらいし、どうしたらいいかわからない。

(倉本の方を向いて) 結局先生も同じ、そっち側の人間なんじゃないですか…今までのことだって…

倉本 (水葵が話している最中にイラついた様子でつぶやく) それはお前のせいだろ。

水葵 え…

倉本 俺はなあ水葵。お前をずっと騙してた。俺はいつだって先生として正しいことを言ってきた。

この仮面をつけていれば、俺はいい先生でいられる。

倉本 (正面に移動しながら) 周りのことも考えず、いちいち主張する。そりゃあ、みんな離れていくさ。

仮面のいうことを聞いていれば、みんな幸せになれるのに。

お前の勝手な主張で振り回される周りの身にもなれよ。

水葵 (顔をそむける)

倉本 なあ、周りから嫌われているのにも気付かないような空気の読めない生徒を俺はどうすればよかったんだ？

(少し間を置き) 答えは一つさ。やさしく慰めて、認めてあげて、背中を押す。それがいい先生だろ？

水葵 ……

倉本 全部仮面の言う通り。なあ水葵、俺はいい先生だったろ？そうだよな？(水葵に詰め寄る)

水葵 近寄らないで!!!

慌てて我にかえり、仮面をつける倉本

さわやかな様子に戻る

倉本

…そ、それじゃあ、先生は用事があるから、今日は久しぶりに会えてよかった！
これからも水葵は水葵らしく頑張れよ、俺はいつでも応援してるからな！

先生は水葵の横を通って退場する

水葵は膝から崩れ落ちる

水葵

…どうして、みんな嘘つきじゃん。…なんでなんだろ、わたしが間違っているんだよね。
わたしってなんなんだろ…どこにいけばわたしでいられるの？
ただわたしはわたしらしくいたかっただけなのに…

水葵

ねえお母さん、瑠依、倉本先生。みんなわたしなんて求めていない。
どこにでもいる誰かになればいいの。分かってる！！

水葵

わたしじゃなくなるのは怖いよ、でもひとりになるのはもっとつらい、嫌われたくない、
だれかそばにいてよ、ひとりにしないでよ！！！！

水葵

ひとりに…しないでよ…

水葵は仮面を手取る

フェードで暗転

暗転途中

音楽（エンディング）スタート

○学校

全員が静かに着席している。生徒は全員、仮面を着けている

水葵は仮面を手にとっている

白木が教室に入ってくる

白木 はい、じゃあ始めよつか。最上さん号令かけて。

水葵 起立、気をつけ、礼(あまり明るくならないように)

全員 お願いします。(全体的に暗め)

白木 …今日は文化祭の出し物について話し合いたいと思います。

白木 それじゃあ、出し物は何にするか。…意見ある人!

水葵以外黙ったまま白木を見つめている

水葵は手に持った仮面をじっと見つめている

舞台が段々と暗くなつて水葵のみ明るくスポットが当たったままになる

その状態で、今までの劇に出てきたセリフが音響で流れだす。

そのまま幕が降りていく。

千代 「以下の内容がランダムに重なるように流れる」

周りに合わせていけば、あなたも誰とも揉めずに幸せに生きていけるわ、それでいいじゃない。

これからこれを着けて生活しなさい。もうあなたは何も考えなくていいから。

倉本

前場面に続き、音楽流れている

(エンディング)

エチュード 別れの曲

照明フェードイン

暗い青ホリゾン

照明に合わせて、音楽音量ダウン

「はい、じゃあ」演技開始

音楽盛り上がりきっかけて

水葵以外の照明フェードアウト

← セリフ音響・バック音楽

← 終了後水葵照明フェードアウト

緞帳降りる

先生も仮面なんて必要ないと思うよ。自分らしいのが一番！！着けたくないなら着けなくていいんだ！
ああ。水葵は水葵のままでもいいんだよ。
全部仮面の言う通り。なあ水葵、俺はいい先生だったろ？

瑠依

つけてないよ。水葵と一緒に。なんだか怖いもん。

ねえ水葵：私たち親友でしょ？

夏海

周りが何か従ってるなら、自分も従う。そうすれば誰も傷つかない。

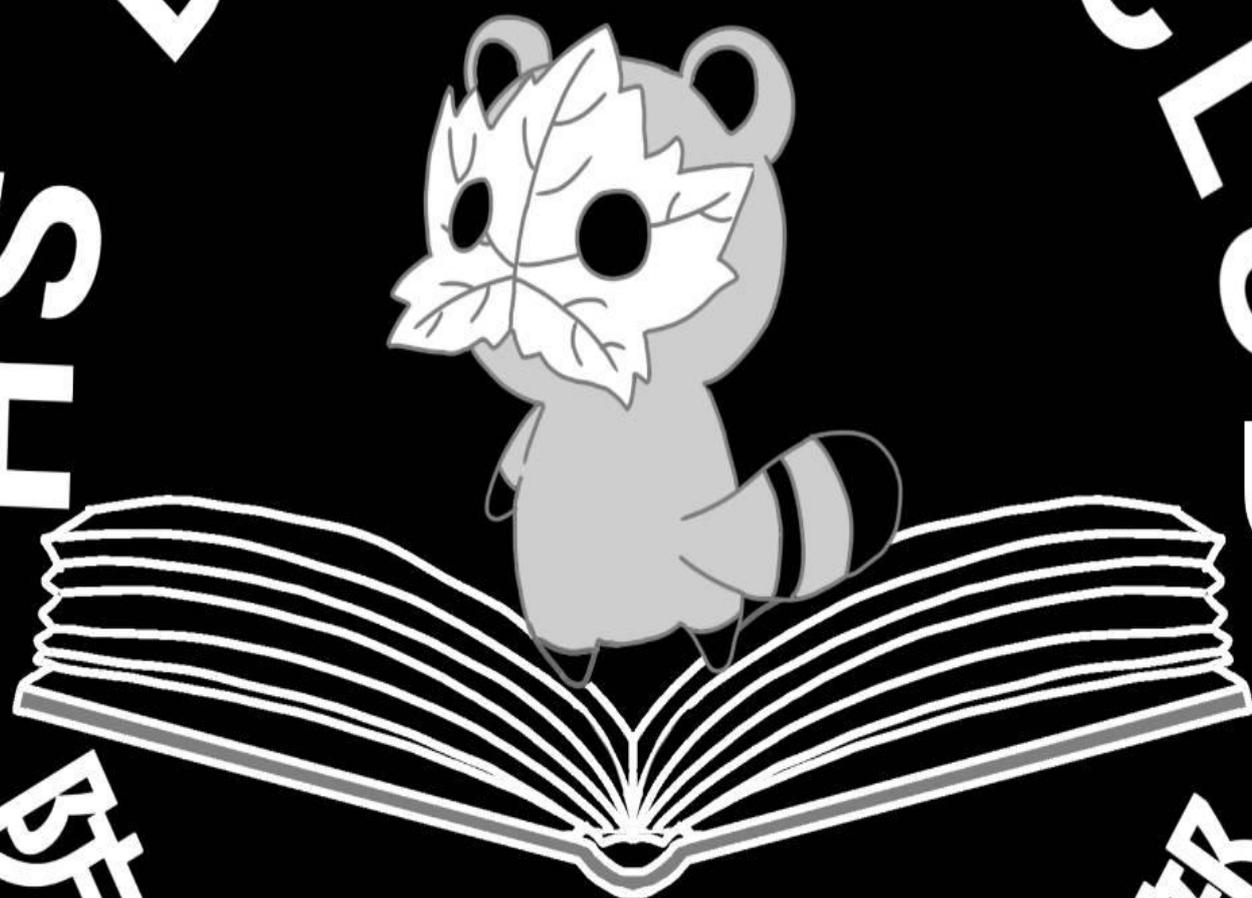
星来

仮面をつければ、自分がどうふるまえばいいか教えてくれる。あなたはただその通りにすればいいのよ。
今に分かるよ。あなたに必要なものがね。

「最後に流れる」

水葵 それはあなたの言葉？仮面の言葉？

H S D R A M A
C L U B



防 府 商 工 演 劇 部